

## わが子の不登校がもたらす両親の内的変化 —家族の秘匿・開示実践に着目したインタビュー調査—

人間福祉学科 生涯発達支援系 佐藤早菜

本研究では、当事者へのインタビュー調査を通して、子どもの不登校が親にもたらす内的変化やその要因について考察した。さらに、新聞記事の調査や支援者へのインタビュー調査から、2001年以降の社会における不登校問題についても考察し、不登校の子どもをもつ親はどうあるのかについて解明を試みた。「秘匿」により近隣社会から孤立し、子どもの不登校を家族内の問題として「内閉化」(本田 2011,p206)した家族の事例があった一方で、両親が子どもの不登校を「開示」する姿勢をもち、外部からの介入を機能させたことで家族関係が改善した事例も存在することが調査により明らかとなった。

新聞記事の分析や支援者への聴き取りに基づくならば、2001年以降に学校以外の場で多様な教育支援が展開されるようになり、ここ数年で不登校を肯定的に受け入れる社会の動きは大きくなっている。結論として本研究は、親が子どもの不登校を「開示」しやすく、多様な支援の中から自分たちに適した支援に繋がることのできるような社会を構築することの重要性を提起している。

### 参考文献

本田宏治 (2011) 『ドラッグと刑罰なき統制—不可視化する犯罪の社会学』生活書院